

JMAT（日本医師会災害医療チーム）活動報告

(5)東日本大震災への京都府医師会の対応

<http://www.onenationworkingtogether.org/news/2515>

(6)兵庫県医師会 JMAT チームの活動

<http://www.med.or.jp/nichinews/n230905h.html>

(学生実習 2011/10/28-1)

3月11日、未曾有とも言える大震災が発災、当日は府医執行部のメーリングリストにて相互連絡、十四大都市災害協定に基づき対策会議を開くこととし、翌12日、対策本部を立ち上げた。

災害規模が広域かつ甚大であることから、京都府との連携の下に行動すること、十四大都市医師会相互支援への対応、派遣医の募集、義援金募集、日医の対応方針の確認などを協議・決定し、府医ホームページに掲載した。13日には、他府県医師会と情報交換を行い、関西広域連合の支援方針の下、滋賀県医師会と共に福島県の医療支援をすることとし、14日に第2回対策会議を開き、福島県医師会と連携して派遣先を決定。医療支援をするとともに、各病院協会、地区医師会、医療関連団体に協力要請を行うこととした。また、今回、地震と津波の複合被害が甚大であり、救急救命より当面の要請として検視医の派遣が急務であることから、急遽4名の検視医チームを編成。15日に仙台市、名取市へ府医救護医第1次派遣隊を派遣した。

さらに、19日にはJMAT第1陣として4名の医師と事務局1名で府医救護医第2次派遣隊を編成し、会津若松市へ派遣した。現地ではガソリン不足などはあったが一応市民生活は保たれており、以後、会津若松市及びその周辺地域、いわき市へ14チーム延べ45名の医師、10名の薬剤師、12名の看護師が関連団体の協力の下、福島県医師会と連携しつつ避難所の巡回診療を行った。福島県では更に原発事故の災害が重なり、避難民への対応、高血圧などの慢性期疾患への対応、不眠、ストレスなどの心身障害、避難所の衛生環境管理などが主な支援であった。しかし、不眠を訴えるものの、睡眠薬を求める方は少なく、余震に対する恐怖、心的トラウマの深さを思い知らされたとの報告であった。また、現地の医療提供体制も震災後1ヶ月でかなり復旧してきたため、県医師会の了解を得て、4月11日で医療支援を終了した。

この度の広域大災害の医療支援の有り様について、多くの問題点が明らかとなった。まず、このような災害に対し、迅速な対応が必須であることももちろんだが、そのための指揮系統が

想定を越える災害であったとは言え、ほとんど機能する状況になかった。検視に赴いた第一陣の医療チームも、情報不足のため、当初は出動場所が判然とせず、半日待機せざるを得なかった。他の支援団体との情報交換、協力体制も不十分であり、個々の支援団体のバラバラの取り組みがしばらく続いたが、県医師会、行政が動き出し、徐々に改善されて、支援チーム同士のミーティングを行い、情報交換、申し送りを行うことが出来た。

派遣する医師会にとっては突発する人的・財政的負担は決して軽微なものではなかった。しかし、今回の医療支援につき、会員にボランティアを募集したところ、150名以上の応募があり、改めて会員の医師としての根源的良心に触れる思いがし、会員への誇るべき認識を新たにすることが出来たのは大きな収穫であった。

被災地に医療チームを派遣するのは、もちろん可能な限り早期なのが望ましいが、現地で医療活動を行う上で、スタッフの安全が確保されていなければならない。その中でより早急に医療スタッフを派遣するには被災状況をより正確に把握することが必要不可欠であり、混乱の最中、いかに正確な情報伝達を行うかが重要である。

兵庫県から派遣された医療チームには県医師会 JMAT の他に、災害拠点病院チーム、県立病院チーム、十四大都市医師会相互支援協定による神戸市医師会チームがある。

兵庫県医師会は3月12日に大震災支援第1回対策本部会議を開催し、県行政との情報交換を経て兵庫県救援医療チームに参加することを決定。その後、JMAT の発足で石巻市を担当することが決定し、3月18日には県知事も含む兵庫県行政の先遣隊に役員を含む7名の医師が加わって、陸路宮城県に入り、検死に協力するとともに担当する石巻市の状況を視察した。その報告を3月20日午後で開催された県医師会代議員会で行い、4月までの委員会等は中止して被災地支援を中心に活動することを出席した代議員の賛同を得て決定した。

救護診療所は、陸路医薬品、食料、水を運んだ医師会事務局員と共に校舎の一室を借りて開設し、同日の午後から外来診療を始めた。その後、県下各地からの参加医師の協力を得て、原則2泊3日の期間で6月19日の救護診療所閉所まで、計44陣が派遣された

平成7年に阪神・淡路大震災を経験している兵庫県医師会は、災害時対応には以前から重点的に取り組んでおり、今回は県看護協会、薬剤師会にボランティアが1つのチームとしてまとまって行動出来た。

また、慢性期疾患が目立つようになった4月以降は内科以外の眼科、整形外科医などの協力も得られ、多くの方に喜ばれた。4月2日からは小中学校にも救護診療所を設営し分担して診療を行うとともに、他の避難所への巡回診療や、在宅診療を受けていた方への往診も行った。

表 1 兵庫県医師会医療派遣于一ム内訳

